藤尾好則教授への献辞

総合管理学部長　**松　野　了　二**

藤尾好則教授は、1994（平成６）年４月に熊本県立大学総合管理学部に着任され、2008（平成20）年３月に定年でご退職される。この14年間、総合管理学部の教育・研究の発展に大きく貢献され、偉大な足跡を残された。ここに深謝の意を表する次第である。

1966年４月に大阪大学基礎工学部電気工学科をご卒業とともに、日本電気株式会社（NEC）に入社、日本の電子計算機の黎明期、電子計算機の補助記憶装置として重要な位置を占めていた磁気テープ制御装置の設計・開発に８年間携わられた後、流通サービス業向け情報システムの設計・開発や「テクニカル・サポートセンター」の運営に従事された。その後1989年から日本電気株式会社ご退職の1994年までの８年間、我が国の電気通信システムの在り方を調査研究（日本データ通信協会）及び、国家プロジェクトとして通産省（現：経済産業省）が推進したソフトウェア生産性向上を目的とした「シグマプロジェクト」に参画され、我が国におけるソフトウェアの生産性を向上させるためシグマツールの製品化や CASE 委員会をとおして情報システム開発手法の研究に貢献された。

熊本県立大学には、熊本県立大学総合管理学部が発足した1994年４月に教授として着任、コンピュータを用いて社会の問題を解決する「情報システム開発論」、ソフトウェアの設計原理を説く「ソフトウェア設計論」、情報学を俯瞰する「システム・アドミニストレーション」、また、文学部・環境共生学部の教養科目である「情報処理入門」「情報処理実習」を担当され、学部と全学の情報処理の能力向上に尽力された。

後援会自主研究「阿蘇観光情報システム構築」にゼミの学生が参加、講義や実習では得られない貴重な体験を３年間実践指導され、卒業研究では「IT で創

る地域社会」の統一テーマで社会の問題点を見つけ解決策をITで提案するなど新しい試みを実施された。

藤尾教授は、国家プロジェクトで活躍された情報の専門家で、情報処理技術者の書籍も数冊出版されていたが、本学部の社会科学の学生向けに新たに講義用教科書を作成され講義に使われた。「社会の経験を生かし、教育現場の実情に合わせた理論と実学の教育を行う」という姿勢が垣間見られ、長年培った経験と知識の真髄を伝えたいと言う情報処理教育への情熱がうかがえる。

研究の分野では、我が国おける「電気通信システムの調査研究」や「情報システム開発方法論に関する研究」では国内・海外調査を含め、委員会や共同研究の成果を報告書（７冊）、設計書、調査要約（２冊）にまとめられている。本学部に着任後、社会科学系分野の学生を対象とした「情報システム設計・開発」の教育についても研究を開始され、その成果を国内学会（４篇）、国際学会（４篇）、アドミニストレーション（８編）において積極的に報告されている。

大学運営に関しては、1999年４月から2003年３月までの計４年間評議員を務められ、熊本県立大学の発展のために尽力された。また、評議員を務められた４年間は情報処理施設運営委員長を併任され、熊本県立大学の「教育用システム」の更新、「学内ネットワークシステム」高速化のため光回線（1GB）への更改に力を注がれた。

社会活動の分野では、日本電気在職時に「シグマプロジェクト」で日本のソフトウェアの発展に寄与され、熊本県立大学着任後には講習会や講演会の講師として地域の情報教育の啓蒙活動に取組まれた。また、学会（Information Science & IT Education Conference）のレビュー/プログラム委員を務め日本の情報教育を海外に紹介され、ご活躍されてきた。

以上、藤尾教授のご経歴及び熊本県立大学におけるご業績について簡単にご紹介させていただいた。最後に、藤尾教授が今後もお元気で充実した日々を送られることを切に念願するものである。